

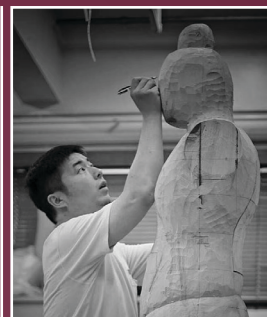
よみがえる奈良の技—聖林寺十一面観音の模刻研究

(英語逐次通訳付き)

REVISITING NARA PERIOD TECHNIQUES:

REPRODUCTION OF THE ELEVEN-HEADED KANNON AT SHŌRIN-JI TEMPLE

(in Japanese, with English consecutive interpretation)



朱若麟 ZHU Ruolin

東京藝術大学文化財保存
修復彫刻研究室博士課程

FRIDAY MARCH 19TH, 2021

10AM - 12PM JST

ZOOM PRE-REGISTRATION LINK:

[HTTPS://TINYURL.COM/2BQ45HO7](https://tinyurl.com/2BQ45HO7)

奈良県聖林寺十一面観音立像は、日本で最初に国宝に指定された仏像の一つである。およそ1300年前天平時代に造られた。本像は木心乾漆造という木や漆などの植物系の材料を用いる技法で造られている。その技法は7-8世紀東亜で隆盛したが、現在日本にしか残ってない。本研究は最新の科学調査(3Dスキャンニング)により得られた情報に基づき、造像当初の構造技法と材料を用い模刻制作を行うことで、本像が造られた当時の姿勢改変などを解明した。



Sponsored by

広人文学